

PICK UP HIU SEEDS

研究シーズ集

地域資源を活用したコンテンツ創出の

マネジメント支援で国内外へ効果的な発信を

研究の意義

本研究は、日本のコンテンツを経済資源として適切に管理・活用する手法を確立することを目指すものであり、企業の競争力強化や地域の経済成長を支える重要な基盤を提供します。



准教授 吉見 明希

- 研究分野
会計学 管理会計論
- 研究キーワード
コスト管理 パフォーマンス評価
コンテンツ 文化ビジネス
クリエイティブ産業

経歴及び
研究実績



研究内容 コンテンツの管理・活用を考える先駆的研究

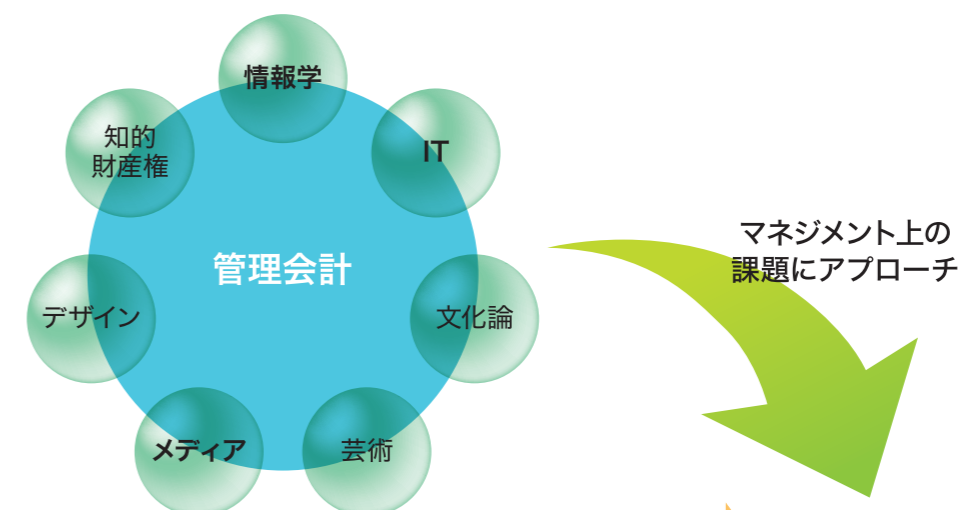
日本はキャラクターやアニメ、マンガ、ゲーム、映画など、世界的に評価を受ける作品を数多く生み出してきました。これらは「コンテンツ(情報の内容)」と呼ばれ、企業の重要な経済資源であり、商品としての販売や広告宣伝、時にはブランドの形成にも活用されています。ただ、これらの制作には多くの費用と時間が必要であり、適切な管理が企業の成長には欠かせません。

コンテンツは目に見えない「情報」や「経験」であり、ビジネスでありながら、その創出には芸術性や大衆文化が深く関係します。私の研究では、コンテンツにはモノやサービスとは特徴に違いがあることを踏まえつつ、制作費を含む費用をいくらかけるべきか、どのようにして収益を獲得すべきかなどの管理方法を検討しています。また、コンテンツをどのくらい活用・展開すれば成功といえるのか計算する手法の検討も進めています。

コンテンツの「財」としての大きな特徴は、作ったコンテンツからいろいろな方法で収益を得られるところにあります。アニメの例でいえば、制作に関わる市場規模に比べて、派生するグッズやDVD、配信など全体の収益は約10倍にもなります。コ

ンテンツはそれだけのものを生み出せるわけですから、モノやサービスにどう情報を付けて価値を見せていくのが、今の日本では特に重要です。私の研究分野である会計学は基本的に、これにはどれだけの価値があるのか、どれくらい費用をかけるのかなどを社内・社外に説明するための分野といえます。どうしたらクリエイターが価値を主張でき、ビジネスとしても成立するのか、会計学の視点から研究していきます。

研究では北海道を主なフィールドとして、アニメ制作企業など現場への実地調査(フィールドワーク)を中心に取り組んでいます。必要に応じてアクティブ・リサーチの手法を活用し、企業の課題解決に向けた提案を行いながら、その過程を研究対象とすることもあります。本研究には、会計学の知識はもとより情報学、IT、社会学、文化論、芸術、メディア論、デザイン論、知的財産権などの学際的な視点も広く取り入れています。情報社会における先駆的研究として、地域経済と企業経営の課題解決にも貢献したいと考えています。



社会実装の可能性

本研究の成果を用いることで、企業が制作費を効果的に使いつつ、より多くの人にコンテンツを届け、収益を増やすことを目指します。また、コンテンツを活用した商品やサービスの展開を手助けできる可能性があります。

地域社会へのアピールポイント

地域社会が持つ資源を国内外へ効果的に発信するには、魅力的なコンテンツ作りが欠かせません。フィールドワークで得た知識をもとに、地域資源(人・モノ・情報)を活用したコンテンツの費用と収益の管理方法の改善を支援します。地域社会に根差すコンテンツ企業の多くは中小企業で、コンテンツの創出技術や意欲はあるものの人材育成やマネジメントには課題が見られます。より多くの人に地域の魅力を伝える仕組みを作り、予算内で最高の成果を上げるコツを見つけるためコンテンツと会計の専門知識を掛け合わせて還元していきます。特に北海道は、コンテンツビジネスのハブになれる強い可能性があると思いますので、その視点を持って研究に取り組んでいます。

今後の展望

日本発のコンテンツがグローバル市場でより大きな競争力を持つことを見据え、効果的で、国内外で活用可能なコンテンツのマネジメント手法の確立を目指します。高度成長期の日本の製造業が、日本の経営を基盤としたマネジメント手法で躍進したように、これからのコンテンツ産業の躍進にも適切なマネジメント手法が必要です。従って、コンテンツの製作を行う企業や、コンテンツを活用したビジネスを行う企業と引き続き連携を深めていきます。また、地域社会との連携を強化し、地域資源を活用したコンテンツ創出のマネジメント支援を通じて、地域経済の振興を図ります。クリエイター側が作品の価値を主張でき、ビジネスとしても成立するような仕組みの構築も目標です。